

---

# 2014年7月期 決算説明会

包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社



---

証券コード: 6267

---

# 目次

I. 事業環境

II. 2014年7月期決算概況

III. 新中期経営計画ならびに  
2015年7月期業績見通し

IV. 参考資料

# 事業環境

- ・生産金額は高水準が続く
- ・生産台数は横ばい

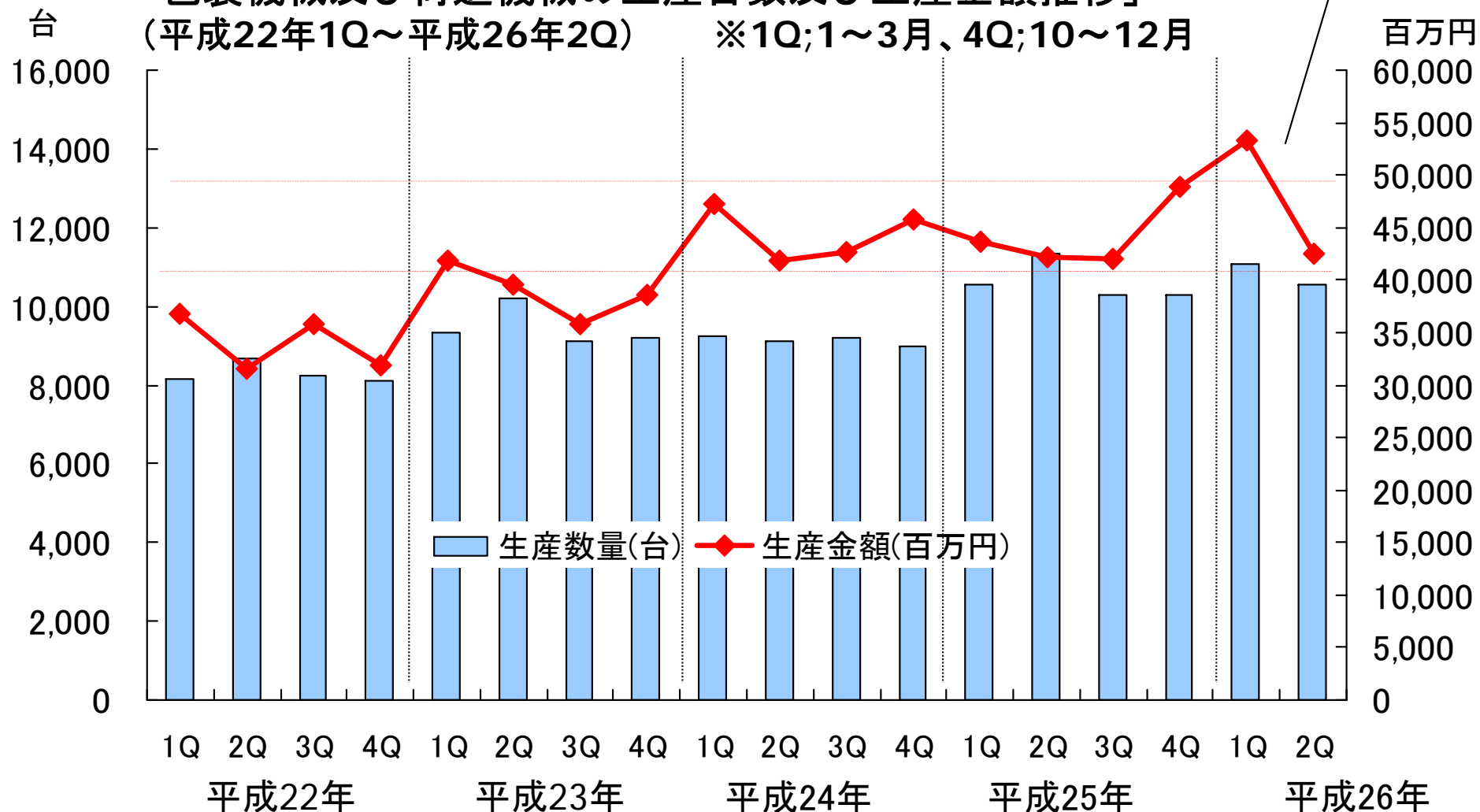
平成26年上半期計  
 生産金額  
 前年同期比11.9%増  
 生産台数  
 前年同期比1.4%減

## 経産省 生産動態統計確報

### 「包装機械及び荷造機械の生産台数及び生産金額推移」

(平成22年1Q～平成26年2Q)

※1Q;1～3月、4Q;10～12月



# 事業環境と現状認識

## <包装機械業界>

- 主要ユーザーの食品業界の設備投資需要は堅調に推移  
アジア、欧州市場への輸出も増加
- 平成25年度(H25.4～H26.3)輸出高は、407億円(前年度比31億円増)  
となり、過去最高を記録
- 業界全体の平成25年度の生産高は、4,000億円(前年度3,864億円)を  
超える見通し  
※(一社)日本包装機械工業会 生産高統計

## <当社の動向>

- 大型案件の受注額及び高額案件の受注件数が増加したことから、  
機械受注高は、前期を大幅に上回り、過去最高となる。  
機械受注残高も、過去最高の水準。
- 国内需要が好調に推移し、大型包装システムの販売実績が増加したことから、  
売上高は2期連続で過去最高となる。
- 海外市場向けは、アフリカ市場向けの実績が発生したものの、  
アジア市場向けの需要が減少したことから、売上高は、前期比微増に留まる。

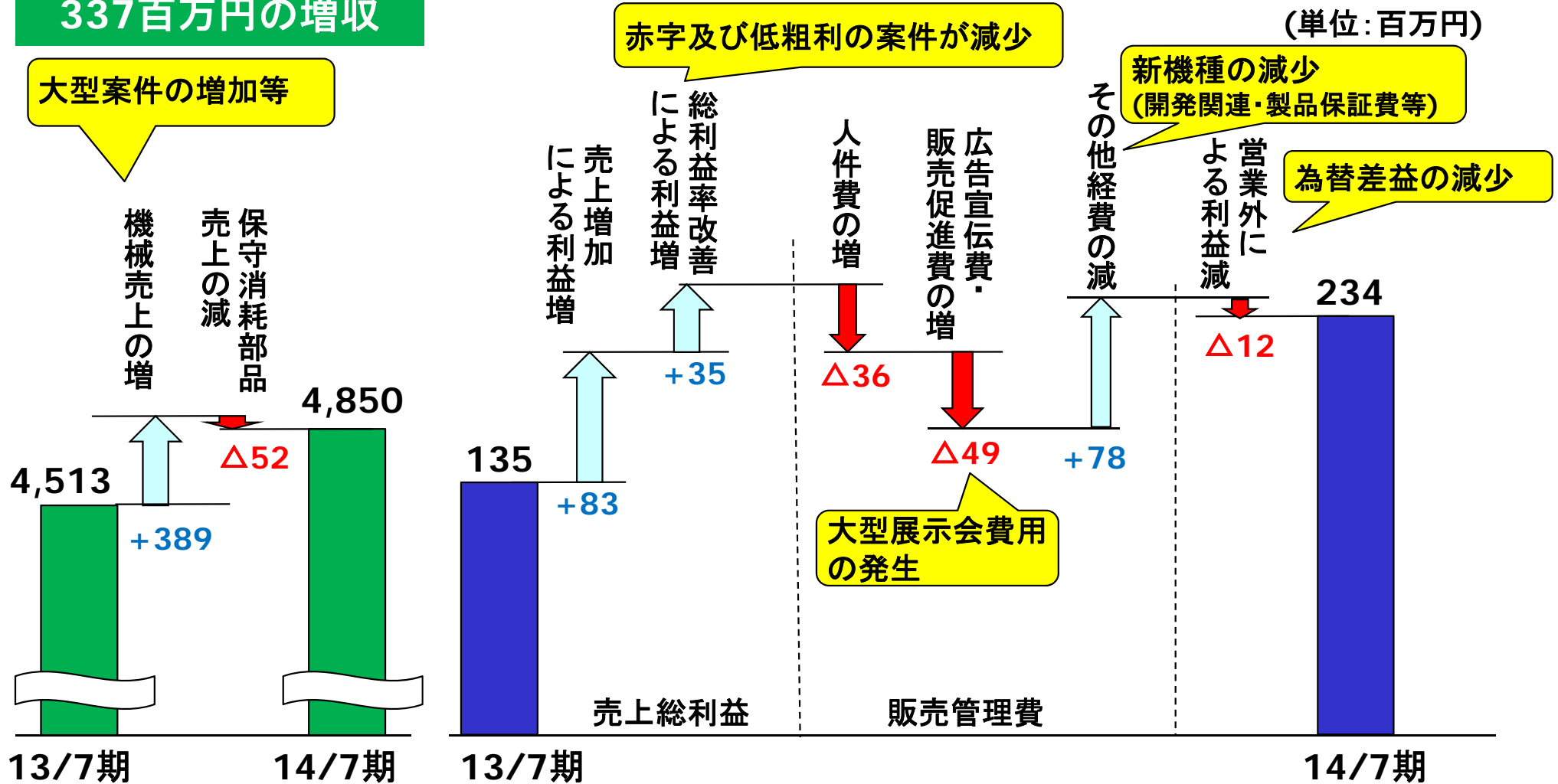
---

# *II. 2014年7月期 決算概況*

# 2014年7月期 決算のポイント

売上高  
337百万円の増収

経常利益増減要因(前期比) 98百万円の増益



期初予想比; 450百万円増収、34百万円増益

# 2014年7月期 決算概要

(単位:百万円、%)

	2013年7月期		2014年7月期		前期比増減		2014年7月期計画 (注)		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率	金額	計画比	率
売上高	4,513	100.0	4,850	100.0	+337	+7.5	4,400	+450	+10.2
売上総利益	1,086	24.1	1,204	24.8	+118	+10.9	1,162	+42	+3.7
営業利益	117	2.6	229	4.7	+111	+94.7	195	+34	+17.6
経常利益	135	3.0	234	4.8	+98	+72.8	200	+34	+17.3
当期純利益	91	2.0	160	3.3	+68	+74.7	120	+40	+33.5

(注)2014年3月6日第2四半期決算発表時の計画

## 増収・増益

- 大型案件の実績が増加したことから、売上高は前期比337百万円の増収。  
コンビニ向け企画商品に係る設備需要が増加したことから、計画比450百万円増加。
- 赤字及び低粗利の実績が減少したことから、売上総利益率は0.7ポイント改善。  
売上総利益は、増収効果により、前期比118百万円増加。
- 販管費は、前期比7百万円増加。
- 経常利益は、計画を上回り、前期比98百万円の増益。
- 当期純利益は、計画を上回り、前期比68百万円の増益。

# 品目別売上内訳

(単位:百万円、%)

	2013年7月期	2014年7月期	前期比増減		2014年7月期 計画 (注)
			金額	率	
給袋自動包装機	2,427	1,779	△647	△26.7	1,750
製袋自動包装機	252	497	+244	+96.8	490
包装関連機器等	811	1,604	+792	+97.7	1,250
保守消耗部品その他	1,021	968	△52	△5.1	910
合計	4,513	4,850	+337	+7.5	4,400

※給袋自動包装機は、ガス充填自動包装機を含む

(注)2014年3月6日第2四半期決算発表時の計画

## 前期比：+337百万円、+7.5%

機械売上高が増収。

- ・給袋自動包装機：▲647百万円・・・高価格機種の販売台数が減少
- ・製袋自動包装機：+244百万円・・・販売台数が増加。
- ・包装関連機器等：+792百万円・・・大型包装システムの実績が増加
- ・保守消耗部品その他：▲52百万円・・・高額保守案件の実績が減少

機械売上  
+389

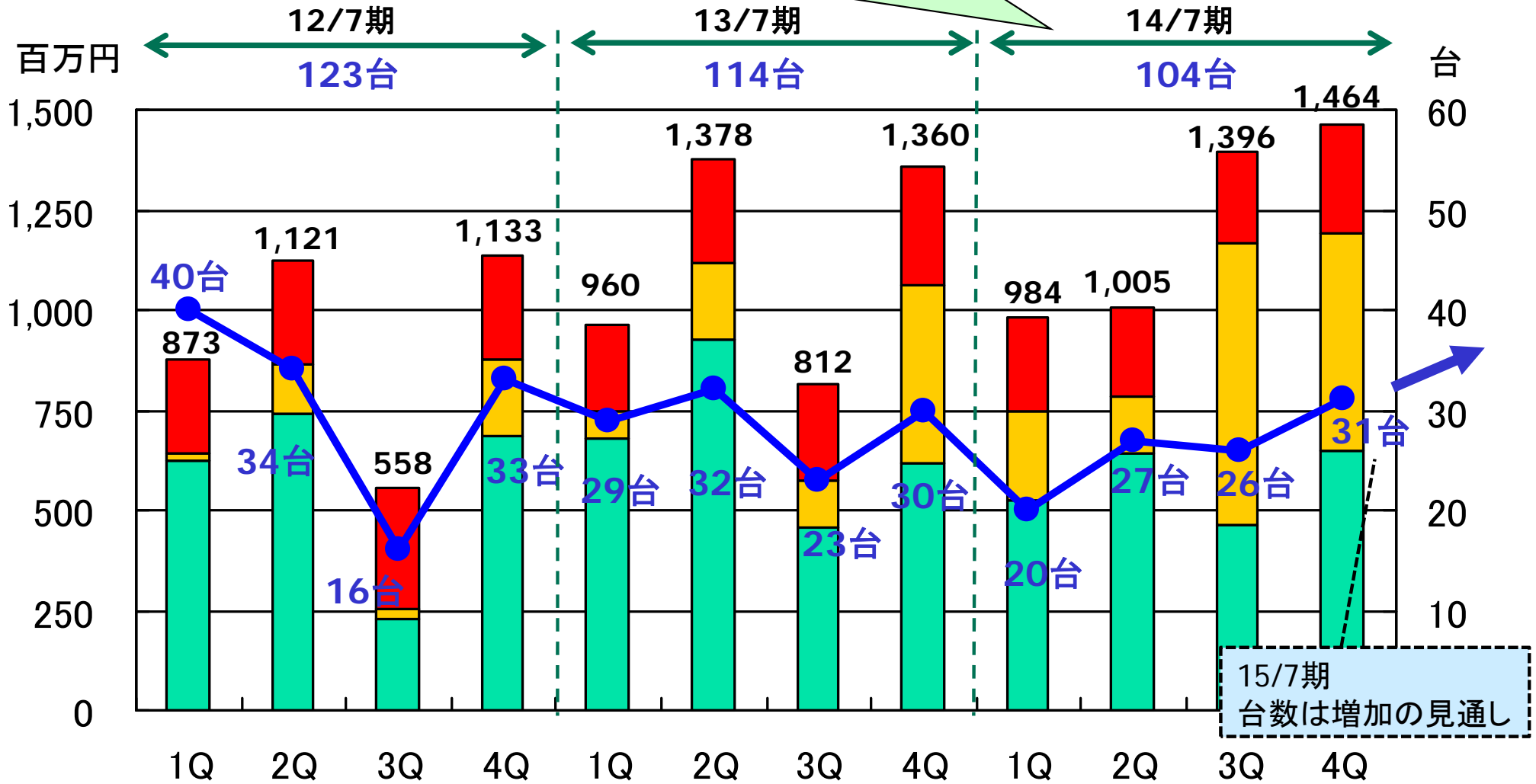
- ・機械売上高 計画比+392百万円・・・国内向け包装システムの増加
- ・保守消耗部品 計画比 +58百万円・・・国内向け消耗部品の増加



# 四半期売上高

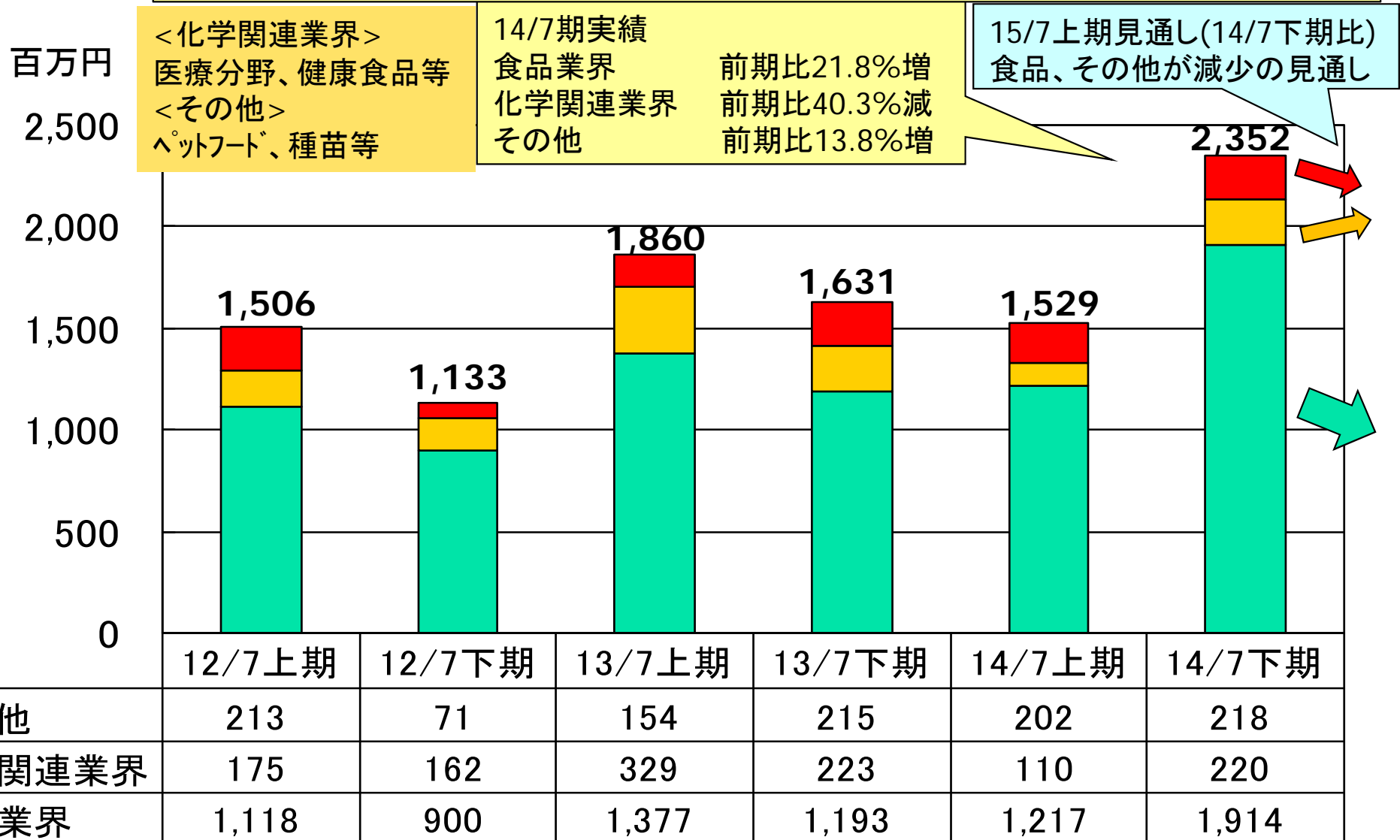
大型案件の有無、高額機種の販売台数により、  
四半期売上高は大きく変動

14/7月期実績  
 自社機販売台数 前期比△10台  
 自社機売上高 前期比△403百万円  
 ※(給袋自動包装機<ガス充填自動包装機含む>、製袋自動包装機の合計)



# エンドユーザー業界別売上高

食品業界向けが増加したことから、機械売上高は前期比11.2%増



# 国内/海外市場別売上高

15/7上期(14/7下期比)  
 ・国内市場 減少の見通し  
 ・海外市場 増加の見通し

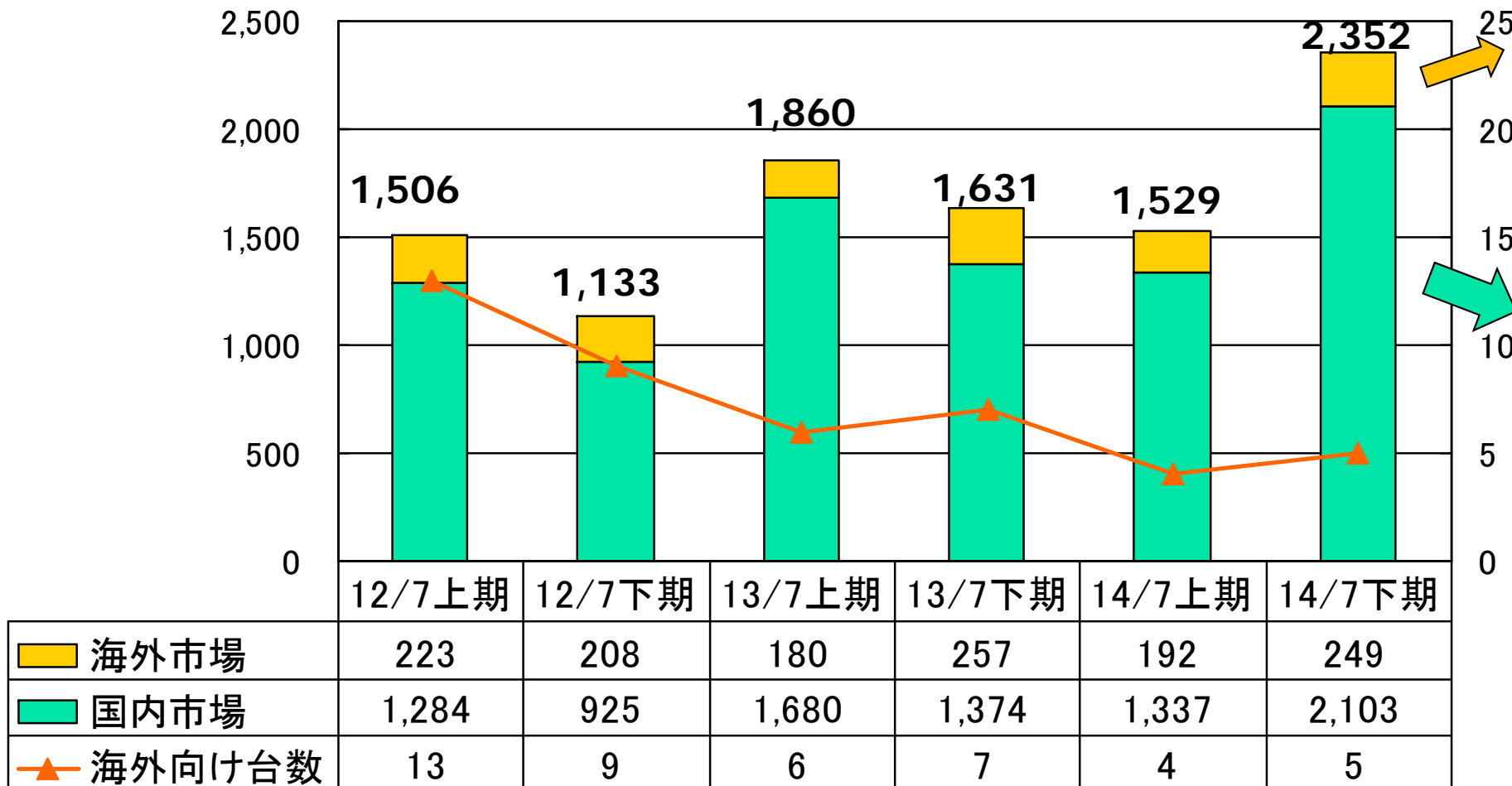
(エンユーザー市場)

14/7期実績 機械売上高

国内市場 3,440百万円 前期比 +387百万円  
 海外市場 440百万円 前期比 +2百万円

百万円

台



※自社機台数

(注)売上高は、機械の売上高のみ

# 海外市場向けの売上高

(エンドユーザー地域別)

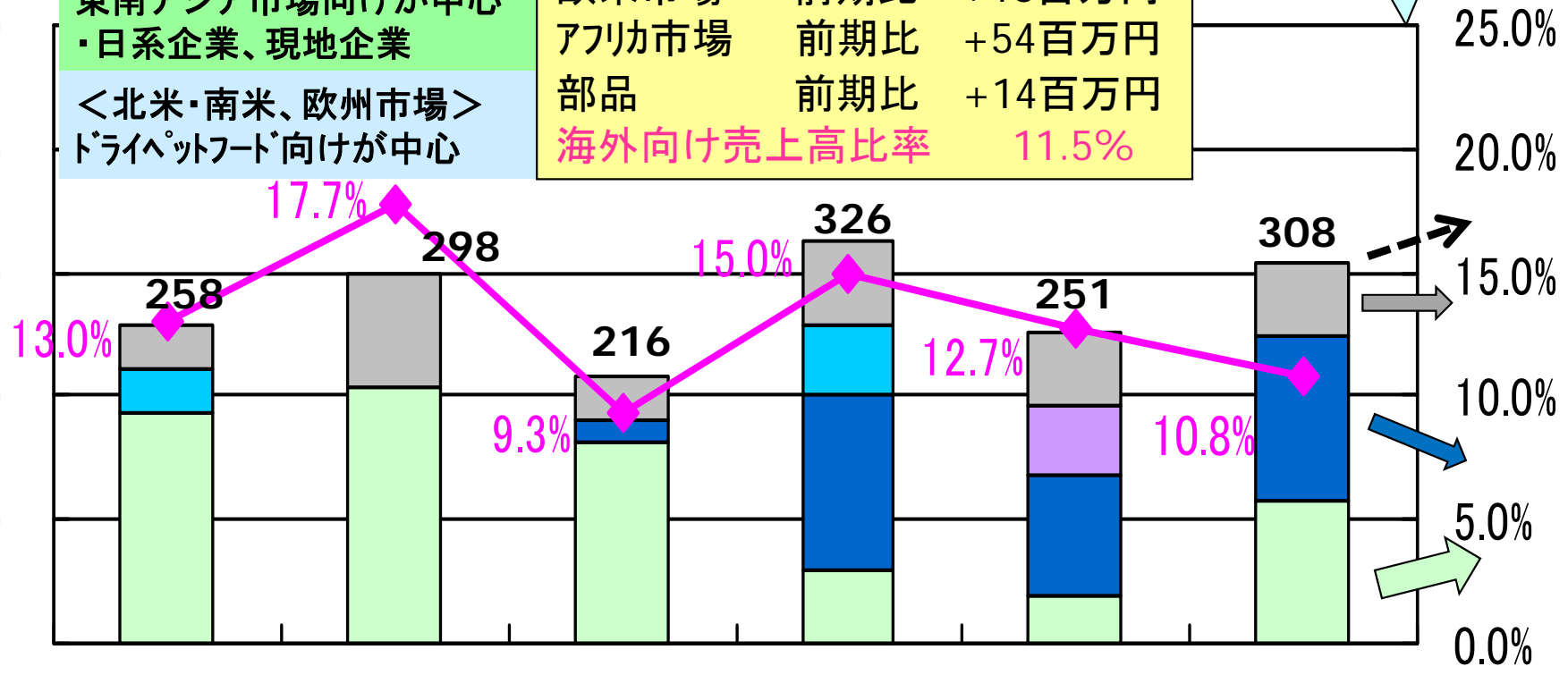
百万円

<アジア市場>  
東南アジア市場向けが中心  
・日系企業、現地企業

<北米・南米、欧州市場>  
ドライペットフード向けが中心

14/7期実績 前期比+16百万円  
アジア市場 前期比 △68百万円  
欧米市場 前期比 +16百万円  
アフリカ市場 前期比 +54百万円  
部品 前期比 +14百万円  
海外向け売上高比率 11.5%

15/7上期(14/7下期比)  
アジアは増加の見通し  
欧米が減少の見通し  
全体として増加



12/7上期 12/7下期 13/7上期 13/7下期 14/7上期 14/7下期

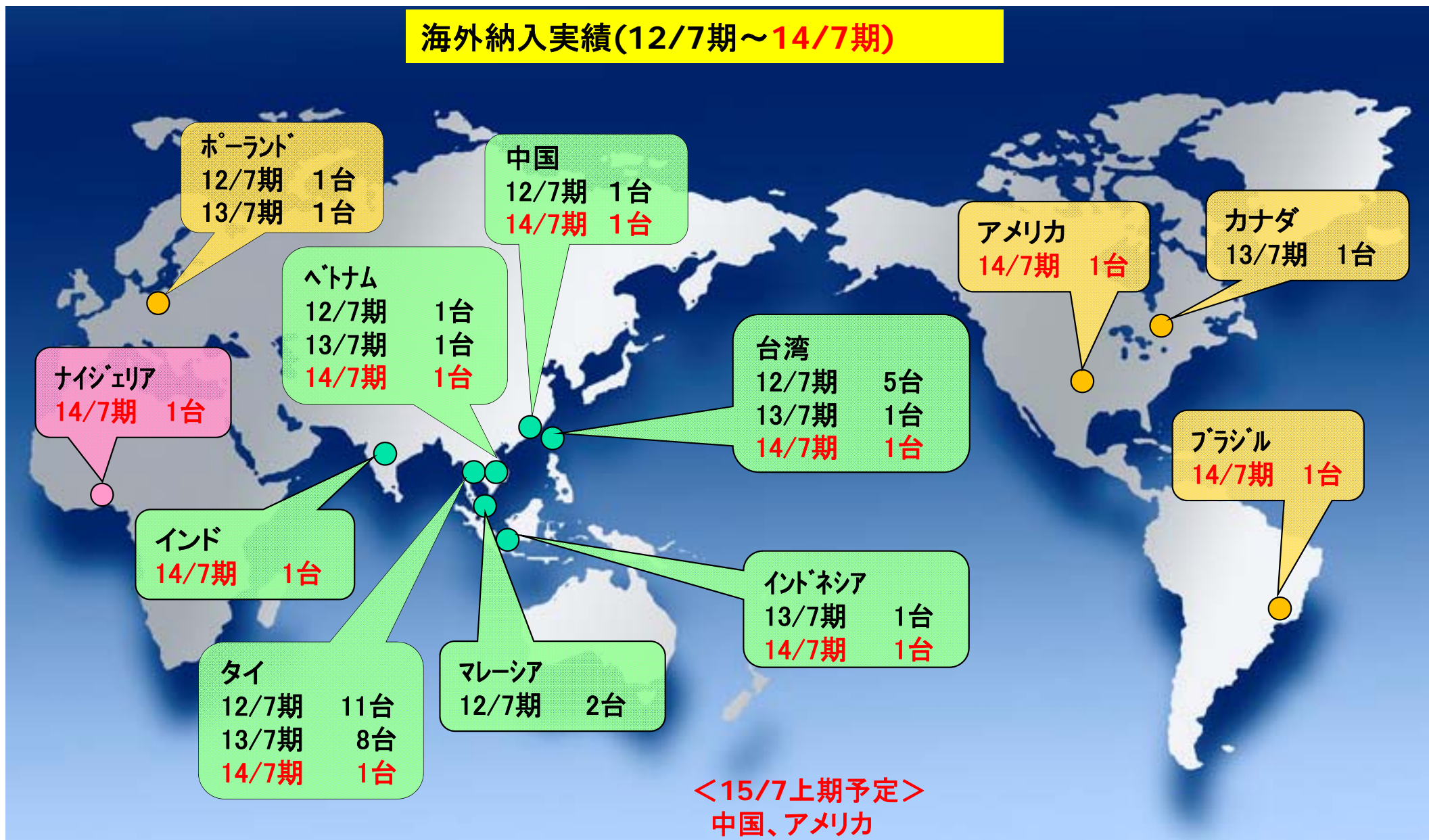


※機械売上高;エンドユーザー地域別

# 海外市場向け 国別実績

※自社機台数

## 海外納入実績(12/7期～14/7期)





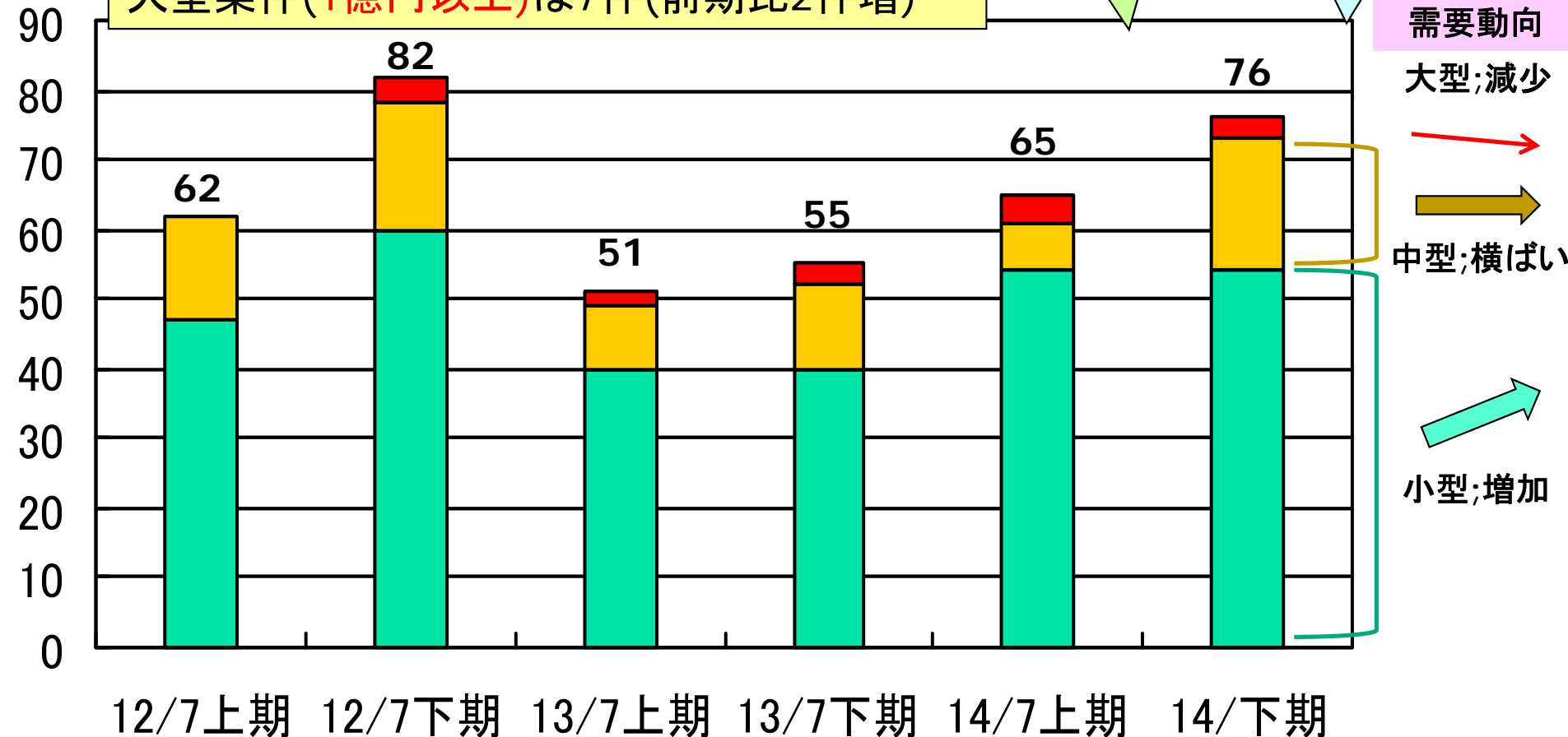
# 機械の受注件数

新規顧客開拓数  
14/7期 47社(前期比29社増)

<15/7上期計画>  
大型案件の確保と  
受注件数の増加を  
目指す

件数

受注件数は前期比35件増⇒ 受注高が増加  
大型案件(1億円以上)は7件(前期比2件増)



1件当たりの  
受注金額の層別

■ 30百万円未満  
■ 1億円以上

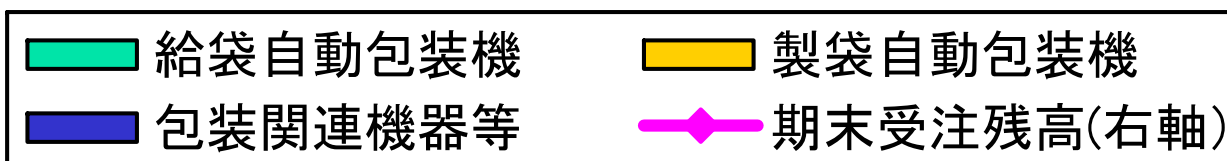
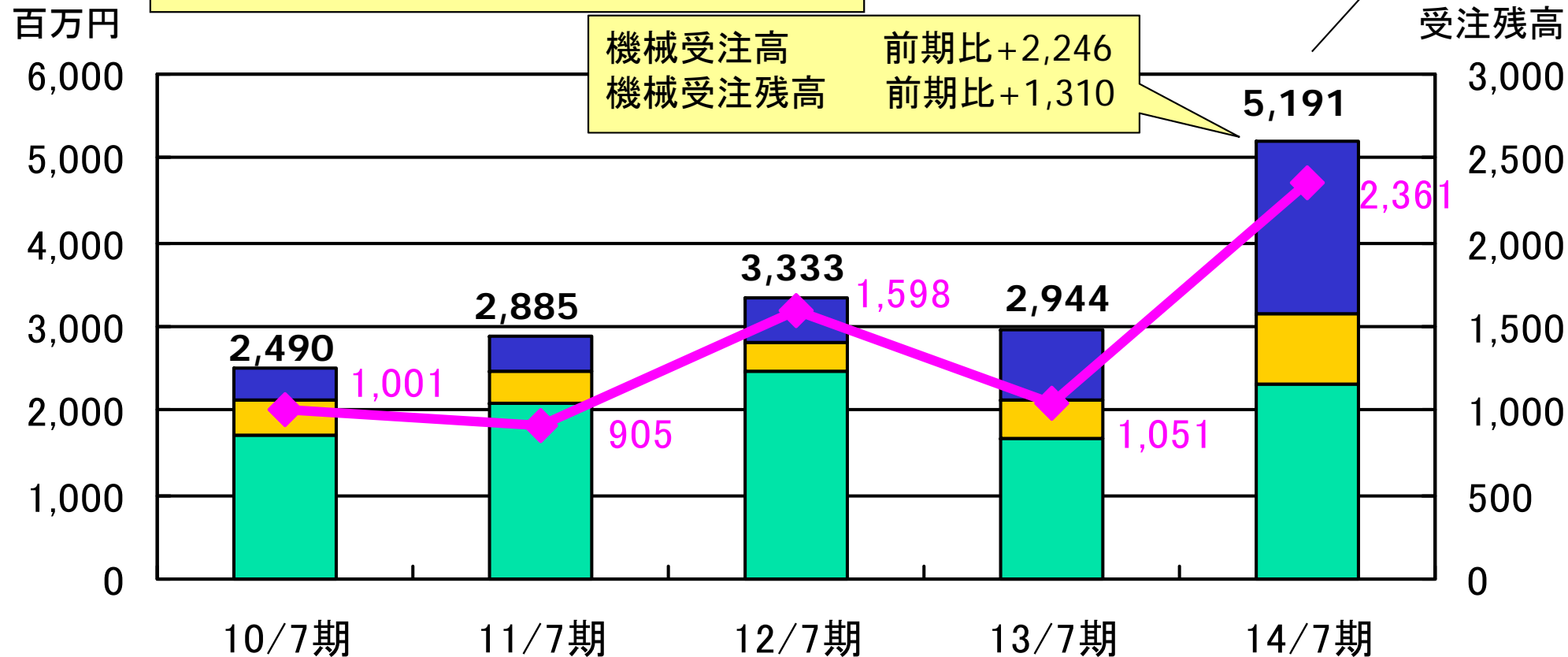
■ 30百万円-1億円未満

# 機械の受注動向

全品目とも増加したことから、  
受注高は前期比76.3%増で過去最高

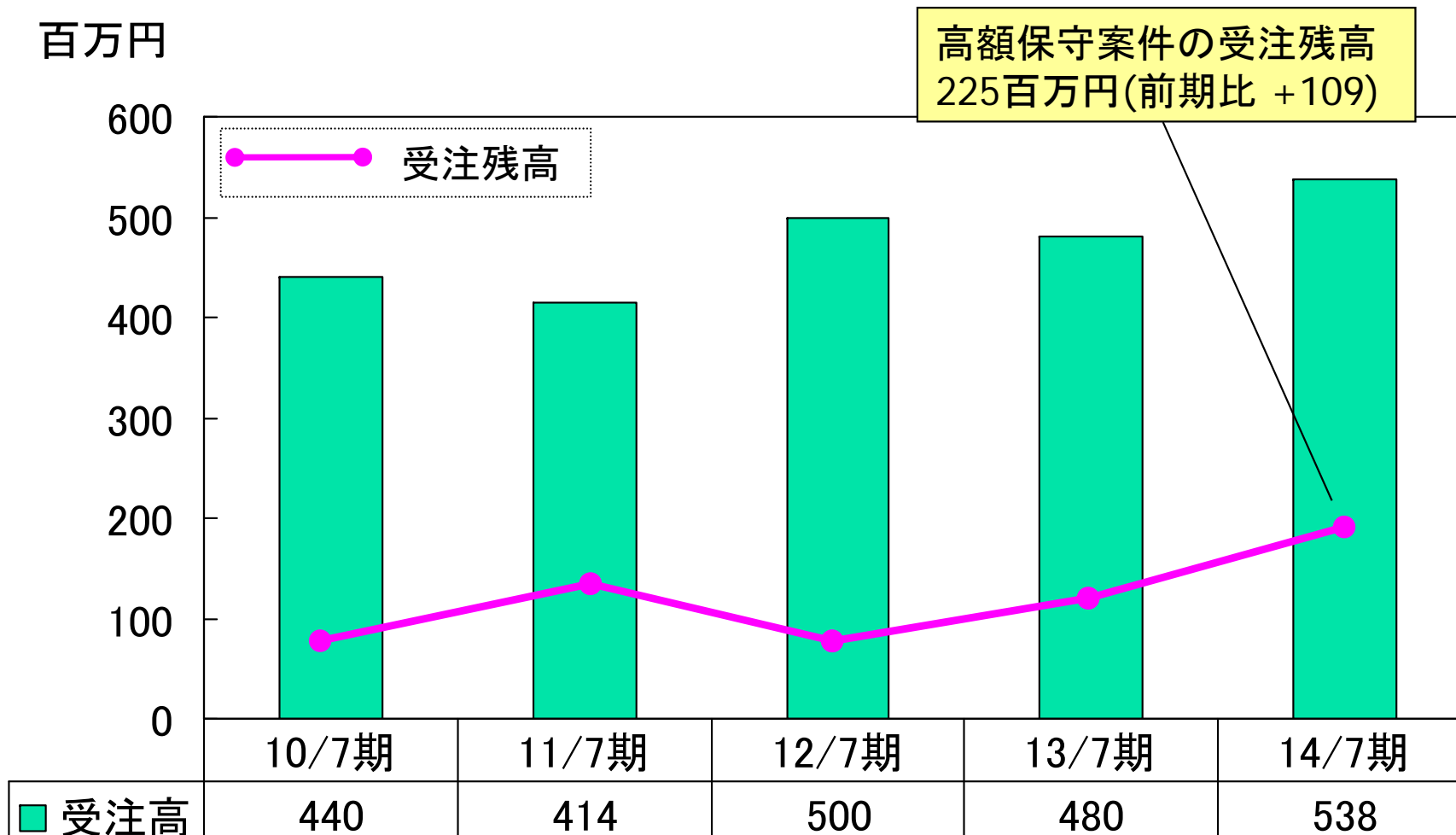
14/7期 四半期受注高

1Q	2Q	3Q	4Q
828	1,519	864	1,978



# 高額保守案件の受注高推移

高額保守案件:百万円以上/件の保守・改造



注)印字機・検査装置等の仕入機器の費用も含む

仕入機器の販売のみの場合は、包装関連機器等に計上



# 販売費及び一般管理費

人件費の増加により、前期比0.7%増

百万円

1,200

1,000

800

600

400

200

0

10/7期

11/7期

12/7期

13/7期

14/7期

■ その他	235	214	243	281	229
■ 戦略経費	207	195	241	239	261
■ 人件費	402	408	412	448	484

15/7期  
9.1%増の見込み

(注) 戦略経費: 広告宣伝費、減価償却費、販売促進費、開発関連費、求人費、業務委託費等の合計

---

# Ⅲ. 新中期経営計画ならびに 2015年7月期業績見通し

# 第3次中期経営計画の総括

(2012/7月期～2014/7月期)

一部未達項目はあるが、当初計画をほぼ達成

第2次中計

※2011年9月6日発表時の計画	当初計画※	実績	計画比	11/7期実績
売上高	4,400百万円	4,850百万円	+450百万円	3,937百万円
営業利益	245百万円	229百万円	▲16百万円	225百万円
経常利益	250百万円	234百万円	▲16百万円	232百万円
当期純利益	150百万円	160百万円	+10百万円	138百万円
売上高経常利益率	5.5%以上	4.8%	▲0.7p	5.9%
ROA(総資産経常利益率)	5.5%以上	4.7%	▲0.8p	5.3%
ROE(自己資本当期純利益率)	5.0%以上	5.5%	+0.5p	4.9%

## 総括

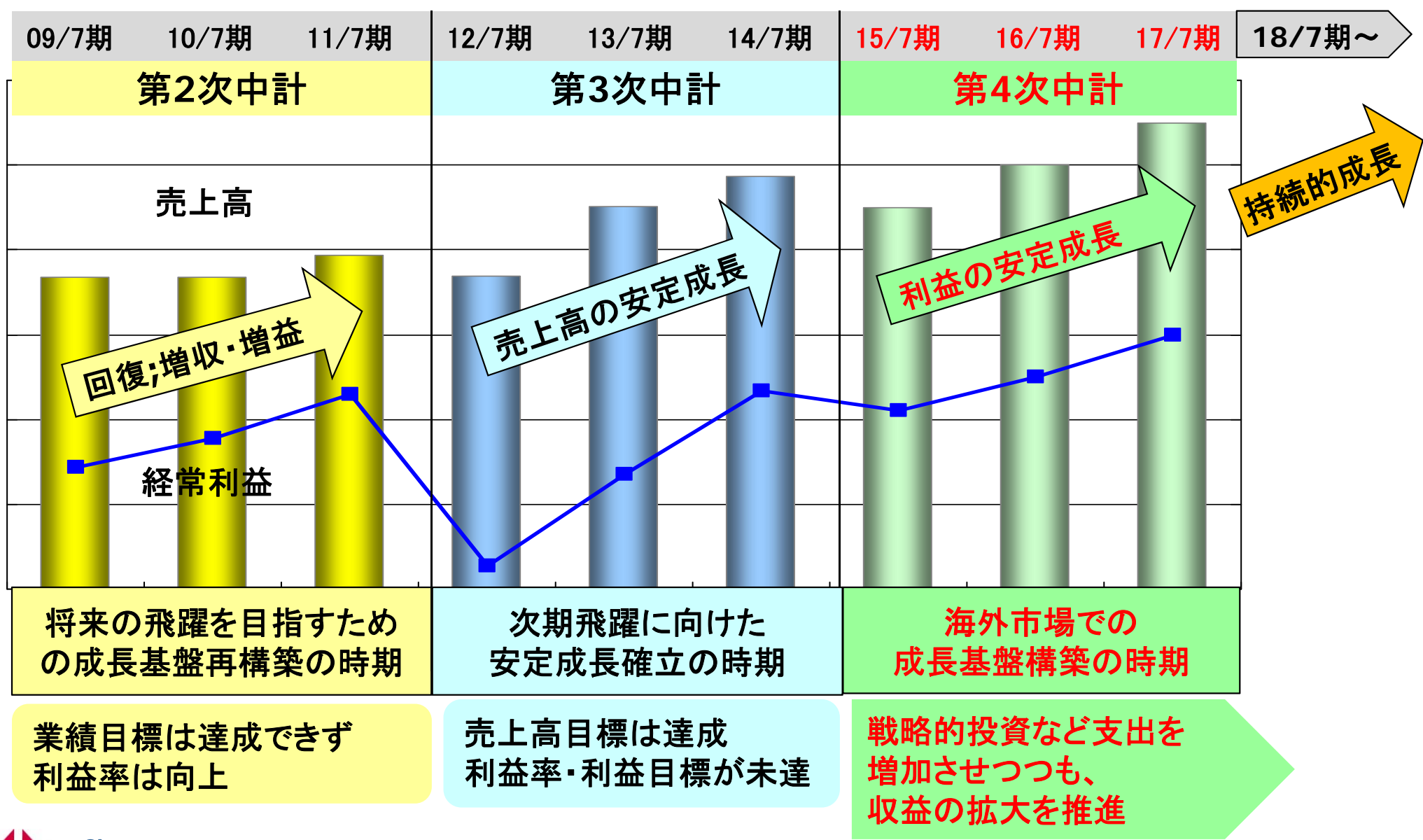
- 売上高は、国内需要が好調に推移し、計画を上回る
- 成長分野と位置づけた新規分野と海外市場の開拓は十分には進展せず  
⇒第4次中計へ持ち越し
- 品目別売上構成比が大きく変化(自社機が減少)し、経常利益率が低下

自社機売上高の増加と海外市場の開拓が重要課題

# 事業計画モデル(第3次中計総括)

売上高(単位:百万円)	11/7期実績	第3次中計 14/7期計画	14/7期実績	計画差異
国内市場 (保守消耗部品含む)	3,474	3,600	4,290	・大型案件の需要が増加 ・新規顧客開拓による効果
内;トータルシステム	534	800	1,634	・大型システムの実績が増加
海外市場 (海外部品含む)	463	800	560	・東南アジア市場の開拓が遅れる
	3,937	4,400	4,850	

# 第4次中期経営計画の位置づけ

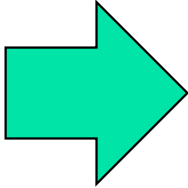


# 中期経営ビジョン

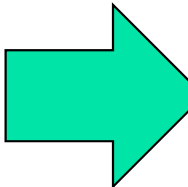
1. 世界に飛躍するGPブランド
2. One stopで応える  
ソリューションカンパニー
3. 挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』

# 中期数値目標

## ■ 経営目標

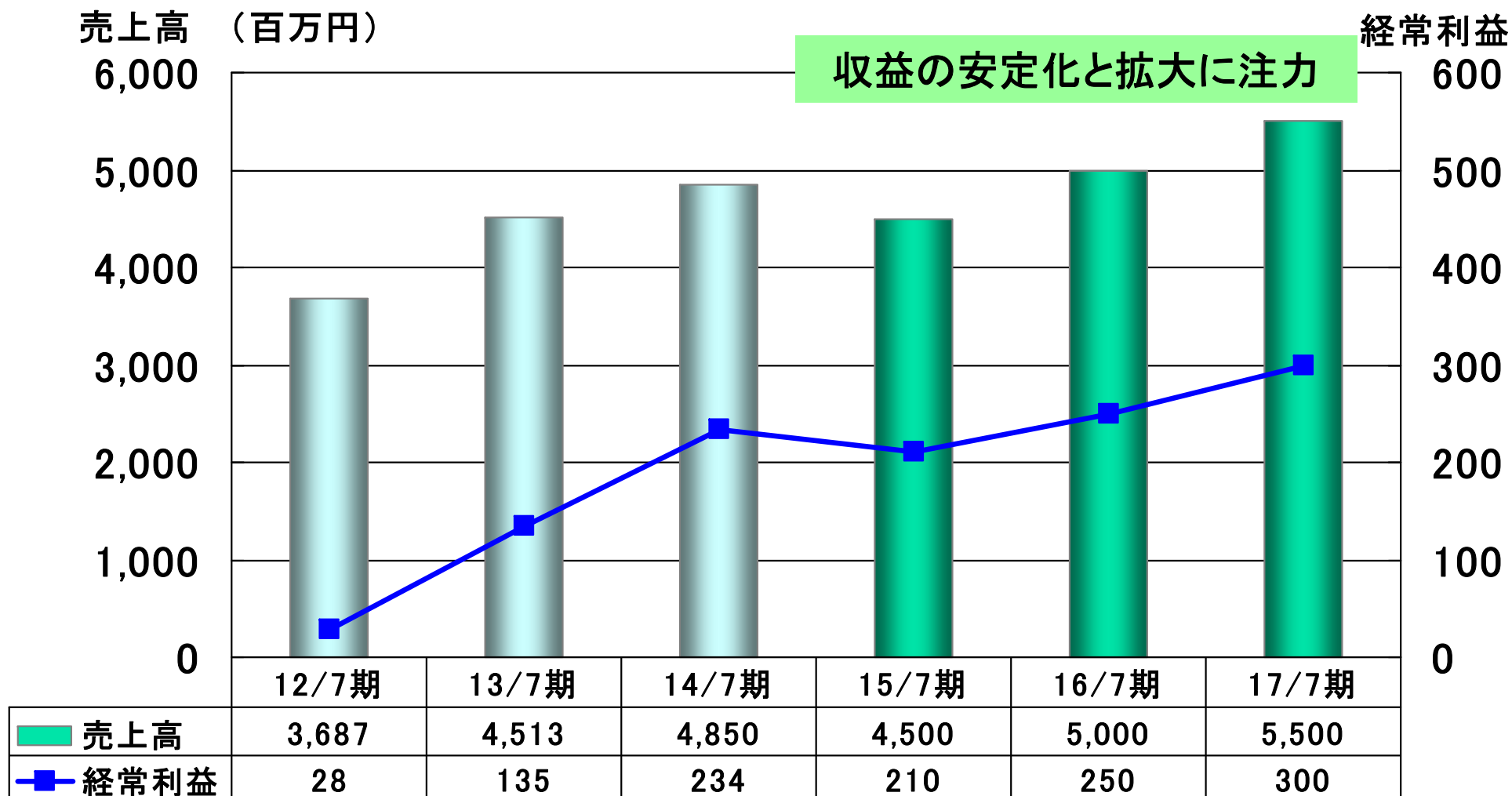
	第3次中計		第4次中計
	14/7期実績		17/7期目標
売上高経常利益率	4.8%		5.5%以上
ROA(総資産経常利益率)	4.7%		5.5%以上
ROE(自己資本当期純利益率)	5.5%		6.0%以上

## ■ 業績目標

	14/7期実績		17/7期目標
売上高	4,850百万円		5,500百万円
営業利益	229百万円		295百万円
経常利益	234百万円		300百万円
当期純利益	160百万円		200百万円

# 業績計画

第2期以降の数値については、事業環境と業績動向を踏まえて、ローリングする場合あり



← 第4次計画 →



# 事業計画モデル(第4次中計)

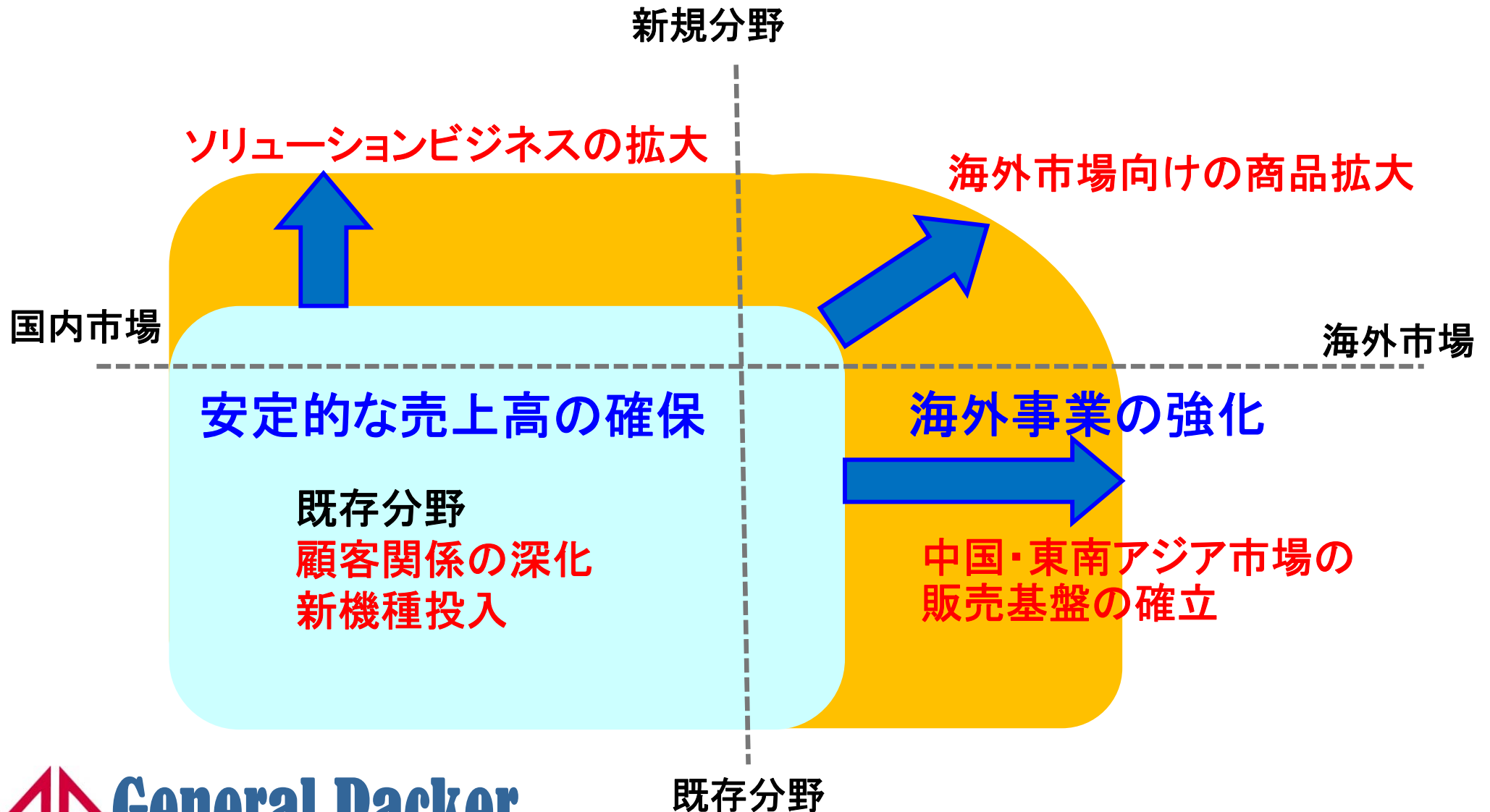
売上高(単位:百万円)	14/7期実績	15/7期計画	16/7期計画	17/7期計画
国内市場 (機械)	3,440	2,900	3,200	3,500
海外市場 (機械)	440	600	800	1,000
保守消耗部品	970	1,000	1,000	1,000
合 計	4,850	4,500	5,000	5,500

国内市場  
14/7期に大型案件が集中した反動減

海外向け売上高比率(保守消耗部品含む)  
14/7期 11.5% ⇒ 17/7期計画 20.0%

# 基本戦略

「持続的成長に向けてグローバル企業を目指す」



## 基本戦略

- ①顧客関係の深化と新機種投入により、国内市場で安定的な売上高を維持する
- ②海外事業を強化し、海外市場向け売上高の大幅な伸長を目指す
- ③顧客の期待にワンストップで応え、ソリューションビジネスの拡大を図る
- ④競争力強化と海外市場開拓のための商品開発を推進する
- ⑤顧客が安心して生産活動できる包装システムとサービスの提供で、顧客満足度を得る
- ⑥事業領域拡大のためのM&A・アライアンスを推進する

# 主な経営施策

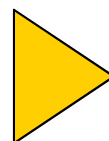
## 販売戦略

- ①グローバル企業及び国内企業海外拠点への企画提案営業の強化
- ②中国・東南アジア市場の販売基盤の確立
- ③次世代包装機販売と顧客関係の深化
- ④問題解決型企业として、顧客の悩み事に素早く対応

### ■海外事業

#### ■新規顧客開拓の受注実績(第3次中計)

12/7期	13/7期	14/7期
4社	5社	5社
タイ	タイ、台湾	タイ、インド、中国



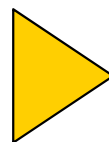
#### 第4次中計

- ・海外営業部の体制強化
- ・中国代理店(14/6月1社) 販売支援
- ・新規販売チャネルの開拓
- ・新機種提案 等

### ■ソリューションビジネス

#### ■高額システム(30百万円以上)の受注実績(第3次中計)

12/7期	13/7期	14/7期
3件	4件	10件



#### 第4次中計

- ・システムソリューション部新設(14/8月)

システムの一部は、資本業務提携先 ワイ・イー・データグループの  
ロボット応用システムを納入 (14/7期実績 計3件)

# 主な経営施策

## 開発・技術戦略

- ①次世代包装機及び海外市場向け新機種の開発
- ②メカトロモーション技術の新たな創造
- ③新しいコア技術の追求による差別化の推進
- ④設計の標準化及び構成部品の共通化を推進
- ⑤人材育成による開発力・トータルプランカの強化

### ■開発実績(第3次中計)

特定ユーザー・業種のニーズに対応した開発が中心

#### 売上実績台数

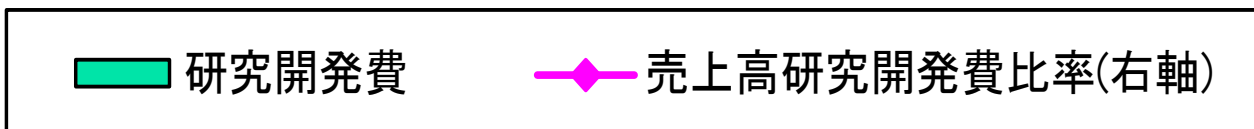
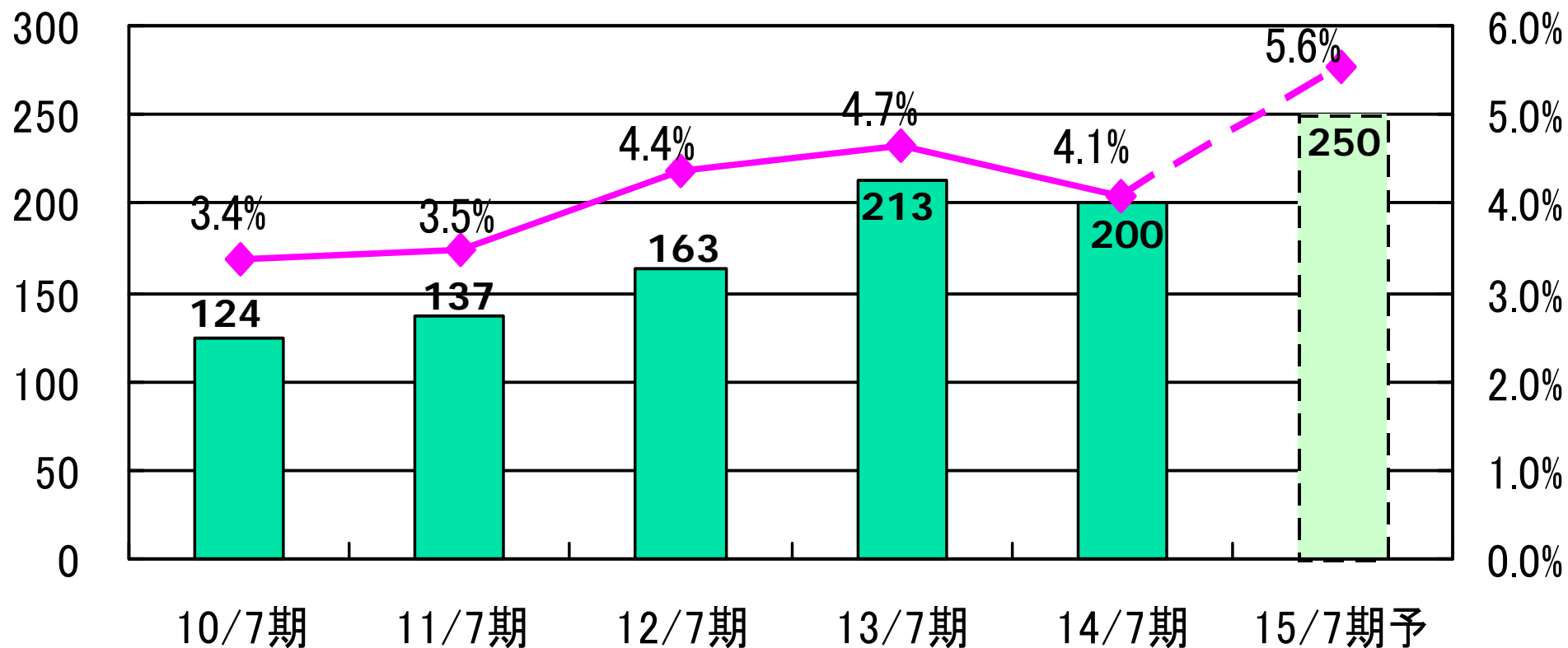
	機種数	12/7期	13/7期	14/7期
12/7期開発機	3	4	1	0
13/7期開発機	7	—	8	5
14/7期開発機	0	—	—	—

第4次中計  
・シーズ中心の開発を  
推進

# 研究開発費

開発部人員の強化、技術開発費用の増加等により、  
売上高研究開発費比率は、15/7期は5.6%の計画

百万円



※研究開発費の内訳;約5割が人件費

# 主な経営施策

## 生産・資材戦略

- ①生産体制再構築による生産力の強化
- ②ISO9001による品質向上
- ③アフターサービス対応力強化
- ④コスト競争力の強化

## マネジメント戦略

- ①収益拡大に向けたマネジメント体制の強化
- ②経営基盤(人材、インフラ)の強化
- ③企業価値の向上とリスク管理の徹底

## IT戦略

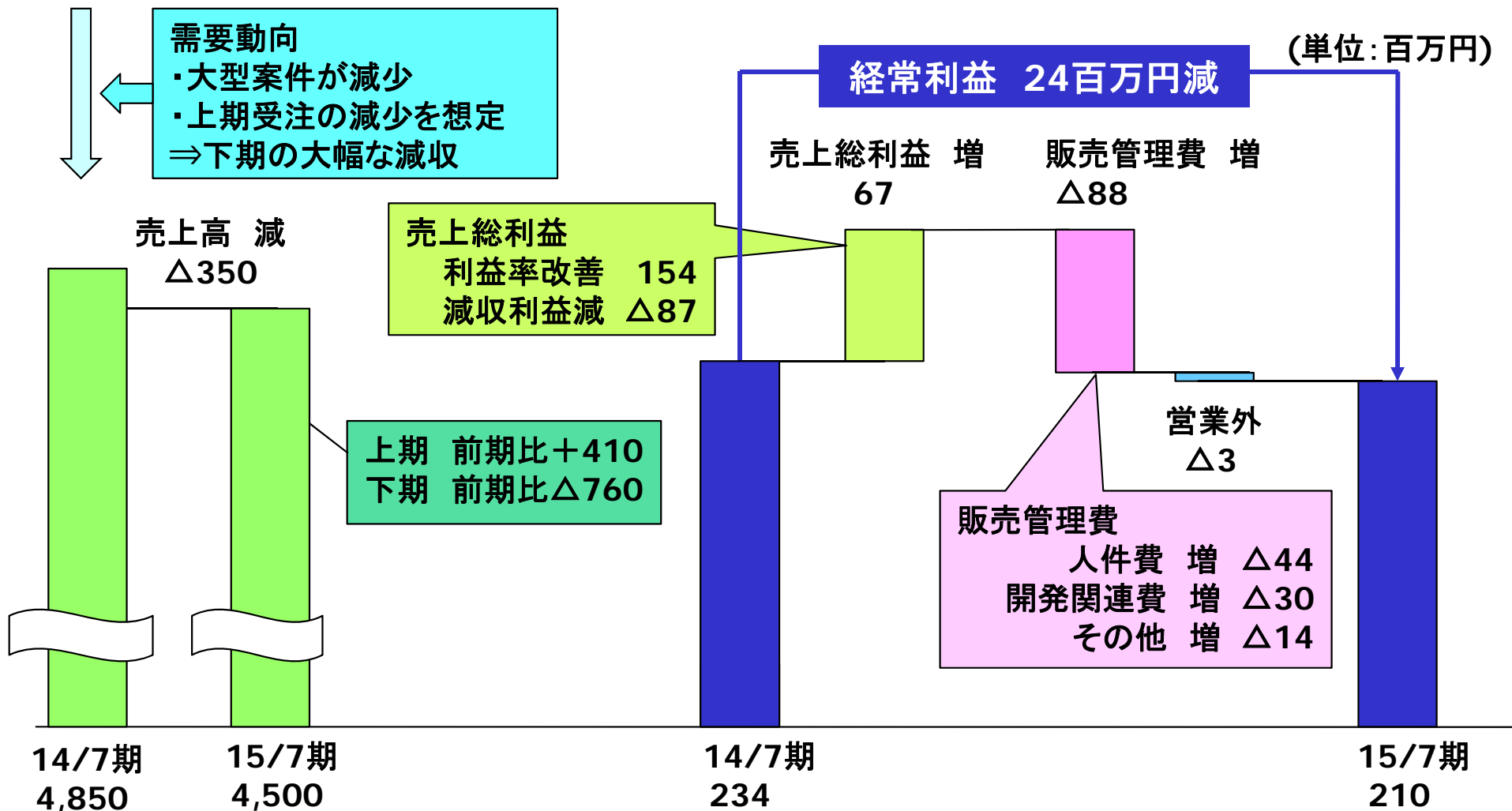
- ①ホームページ海外向けサイトの強化
- ②基幹システムの再構築と次期システムの拡張構築
- ③開発設計業務効率化のためのIT導入・活用の推進

# 2015年7月期 業績見通し(概要)

機械受注残高 前期比+1,310  
 高額保守受注残高 前期比 +109

前期大型案件集中の反動減により、減収・減益の見通し

需要動向  
 ・大型案件が減少  
 ・上期受注の減少を想定  
 ⇒下期の大幅な減収





# 2015年7月期業績予想

(単位:百万円、%)

	2014年7月期		2015年7月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
売上高	4,850	100.0	4,500	100.0	△350	△7.2
売上総利益	1,204	24.8	1,272	28.3	+67	+5.6
営業利益	229	4.7	208	4.6	△20	△9.0
経常利益	234	4.8	210	4.7	△24	△10.5
当期純利益	160	3.3	140	3.1	△19	△12.3

## 減収・減益

- 販売台数は増加するものの、大型案件が減少。  
主な取組み: 自社機の拡販と海外向け売上高の増加
- 売上高は前期比7.2%減の45億円を見込む
- 総利益率は、前期比3.5ポイント改善し28.3%  
主な取組み: 自社機売上高構成比の増加と高粗利益機種の販売台数の増加
- 販管費は、人件費及び研究開発費などの増加により前期比9.1%増加
- 経常利益率は前期比0.1ポイント低下し4.7%
- 当期純利益は、前期比19百万円減の140百万円を計画

# 2015年7月期品目別売上予想

(単位:百万円、%)

	2014年7月期		2015年7月期		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	率
給袋自動包装機	1,779	36.7	2,142	47.6	+362	+20.4
製袋自動包装機	497	10.2	600	13.3	+103	+20.7
包装関連機器等	1,604	33.1	758	16.9	△846	△52.8
保守消耗部品その他	968	20.0	1,000	22.2	+31	+3.2
合計	4,850	100.0	4,500	100.0	△350	△7.2

※給袋自動包装機は、ガス充填自動包装機を含む

## 品目別売上高見通し

**前期比：△350万円、△7.2%**

自社機売上高は増加するものの、包装関連機器等が大幅な減収。

- 給袋自動包装機：+362百万円・・・販売台数の増加
- 製袋自動包装機：+103百万円・・・高価格機種が増加
- 包装関連機器等：△846百万円・・・大型包装システムの減少
- 保守消耗部品その他：+31百万円・・・高額件数の増加

自社機売上  
+465

# 株主還元

## 中期配当政策

- 株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向50%または純資産配当率(DOE)2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指す。

	2012/7期	2013/7期	2014/7期	2015/7期予想
中間配当	3.50円	3.50円	3.50円	3.50円
期末配当	3.50円	3.50円	3.50円	3.50円
年間配当	7円	7円	7円	7円
当期純利益／株	0.88円	10.34円	18.03円	15.81円
配当性向	791.8%	67.7%	38.8%	44.3%
DOE	2.2%	2.2%	2.1%	2.1%

---

# V. 參考資料

# 包装機械業界

単位:億円

企業数 約420社(専門メーカー 約240社)

中小企業が約9割

機種別	生産高
<b>個装・内装機械</b>	<b>3,260</b>
包装用計量機	196
充てん機	389
びん詰機械	566
製袋充てん機	594
真空包装機	108
その他	1,404
<b>外装・荷造機械</b>	<b>603</b>
ケース詰機	132
その他	471
<b>合計</b>	<b>3,864</b>

需要先別構成比

- ・食品部門 51.0%
- ・化学部門 18.7%
- ・その他 20.6%
- ・輸出 9.7%

主な上場企業

専門メーカー:東京自働機械製作所  
兼業メーカー:CKD、渋谷工業 等

袋詰用包装機

当社の主力包装機の区分

当社:包装機械の専門メーカー

■ドライ物(粉末・顆粒・固形物等)の包装機械・システムに特化

- ・高品質・高難易度の包装分野
- ・チャック付袋包装、ガス充填包装等

主な競合先(ロータリー式包装機メーカー)

- ・東洋自動機(非上場):レトルト物の包装が主力  
※ナブテスコ連結子会社
- ・古川製作所(非上場):ウェット物・真空の包装が主力

(一社)日本包装機械工業会  
「包装機械及び荷造機械生産高統計」  
2012年度実績

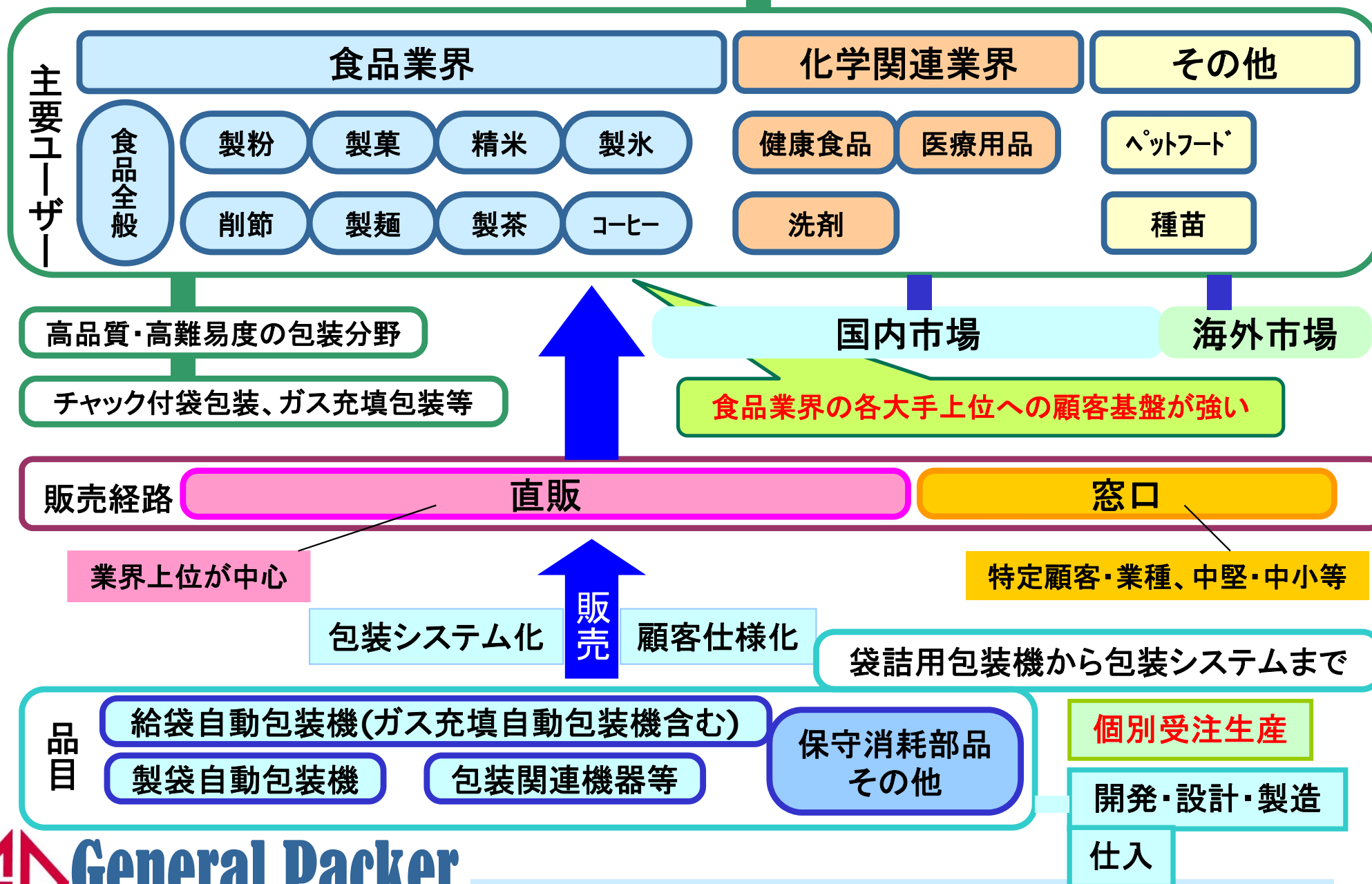
# 会社概要(2014年7月31日現在)

- 設立 1966年(創業 1961年)
- 資本金 251百万円
- 発行済株式数 8,994千株
- 売買単位 1,000株
- 決算期 7月末
- 事業内容 各種自動包装機の製造・販売  
(食品・化学品・健康食品・医療用品等の包装用機械・システム)
- 従業員数 127名(その他臨時雇用者16名)
- 事業所 本社・工場、東京営業部

証券コード;6267  
東証JASDAQ・名証二部

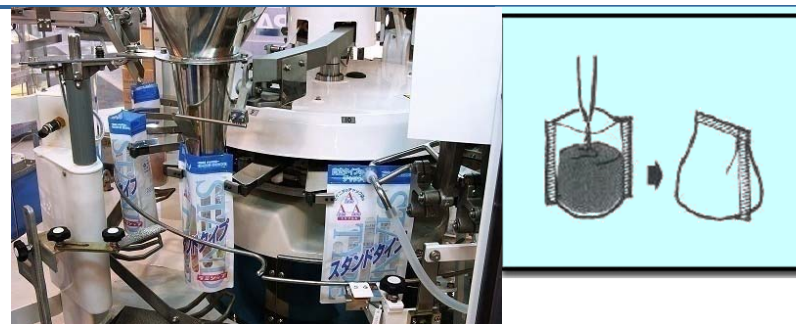
# 事業内容

主要市場:ドライ物(粉末・顆粒・固形物等)の包装用機械・システム



# 品目内容

対象物(粉末・顆粒・固形物等)  
を袋に充填して包装する機械



## 袋詰用包装機

### 給袋自動包装機

袋 → 給袋装置 充填・包装装置

菓子類、小麦粉、食品類、調味料、ペットフード、健康食品、医療用品、肥料、粉末薬品、電子部品等の袋詰用包装機。多品種少量生産向け。

### ガス充填自動包装機

袋 → 給袋装置 充填・包装・ガス充填装置

花かつお、ナッツ類等の袋詰用包装機。

### 製袋自動包装機

フィルム → 製袋装置 充填・包装装置

充填物は給袋自動包装機と同様。小袋の高速包装から大袋包装まで。フィルムから袋を作りながら包装する機械。

## 包装関連機器等

付帯機器(充填機、計量機、計数機、印字機等)、  
段ボールケーサー、各種包装システム等

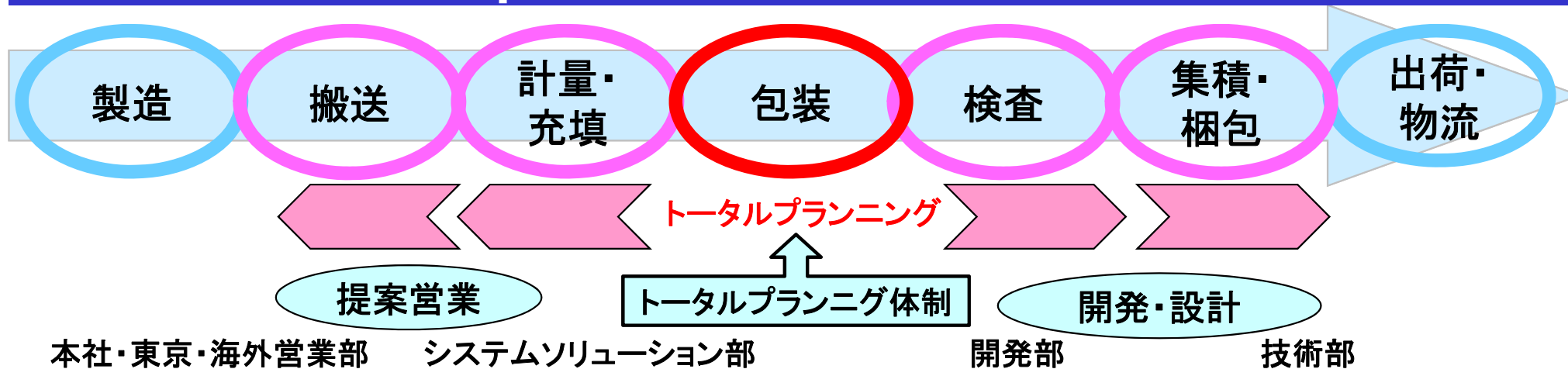
## 保守消耗部品その他

当社販売機械の保守、修理・交換用部品、  
印字機、検査装置等の取付・改造等



# (経営ビジョン)

One stopで応えるソリューションカンパニー



挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』

## 人員推移

	09/7期末	10/7期末	11/7期末	12/7期末	13/7期末	14/7期末
従業員	109	114	119	123	124	127
(内 開発・技術部人員)	(27)	(28)	(32)	(34)	(38)	(40)
臨時雇用者※	25	24	21	18	19	16
合計	134	138	140	141	143	143

※パート、嘱託、派遣

従業員平均年齢	36.1歳	37.0歳
---------	-------	-------

# 包装システムの市場創造型トータルプランナー ゼネラルパッカー株式会社

## 当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。

【IR窓口】 経営企画室 長谷川  
〒481-8601  
愛知県北名古屋市宇福寺神明65  
電話：0568-23-3111  
FAX：0568-22-3222  
E-mail：info@general-packer.co.jp

